



幹本申7号

「2023年度新幹線総合車両センター業務計画について」に関する説明申し入れを行う!

1. 軸箱検修作業を委託する目的とメリットを明らかにすること。

(会社) グループ全体でサステナブルな検修体制、より効率的な業務運営を目指すことが目的だ。退職者がいることも1つの要素ではあるが、グループ全体で発展していくための施策の1つと考えている。

(組合) 今回の委託によって、どのような部分が効率的になるのか?

(会社) これまで前後工程をG会社が担当。委託によって、一連の作業をG会社で完結できるメリットがある。

2. 軸箱検修作業の具体的な委託内容を明らかにすること。

(会社) 軸受・軸箱体・オイルシール・後蓋など、コロハウスの検修作業をすべて委託する考えだ。

3. 提案から実施までの期間を2ヶ月とした根拠を明らかにすること。

4. 委託に向けた教育体制およびスケジュールを明らかにすること。

(会社) JR社員の教育カリキュラムも3週間程度であり、同等の教育期間を計画している。人数は3名程度。

OJTに加え、机上でも作業標準や過去の事象について教育していく考えだ。必要な教育は実施する。

(組合) 4月1日実施ありきではなく、見極め完了後の委託でよいか? また、この時期に提案に至った理由は?

(会社) JRで見極め後の委託となる。G会社との調整等、様々な事情を勘案して業務計画での提案に至った。

5. 委託に伴う要員効果の活用方法を明らかにすること。また、異動および出向の有無について明らかにすること

(会社) 業務量との兼ね合いもあるので、一概には示せないが3名分となる。出向についてはこの場では回答できないが、組内・科内・科外も含め、個々の希望や能力に応じて活用していきたい考えだ。

(組合) G会社の請負能力を勘案して、委託を判断でよいか? 出向がなくても委託可能という認識でよいか?

(会社) そうだ。

6. 委託後も安全と品質をどのように維持・向上していくのかを明らかにすること。

(組合) 後蓋からの漏油が多々発生しており、原因も明らかになっていない。会社としてどう考えているのか?

(会社) 現在も原因を究明しているところであるが、走行している中で何らかの異物を噛み込んだものと推定している。今後も必要な処置を行うと同時に、G会社と連携して原因究明と対策を行っていく。

台車部品の検修業務は、脱線・輸送障害に直結する。

新幹線の安全・品質を確保するために職場議論を深めよう!!